# 自主自律の精神を育む道徳の授業の展開
## ― ＩＣＥモデルを取り入れた評価を通して ―

呉市立呉中央中学校　高野　由香

**研究の要約**

本研究は，自主自律の精神を育む道徳の授業の展開における，ＩＣＥモデルを取り入れた評価の有効性を考察したものである。文献研究から，ＩＣＥモデルを取り入れたルーブリック（以下「ＩＣＥルーブリック」とする。）を育成すべき生徒の姿として設定し，教師と生徒が共有し授業を行えば，生徒の主体的な学びが促されることが分かった。また，自主自律に関わる道徳の授業において，自分との関わりで考えさせる指導方法の工夫を行えば，自主自律の精神が育まれることが分かった。そこで本研究では，学級活動において「ＩＣＥルーブリック」を教師と生徒が共有・作成し，自己評価で活用させた。次に自主自律に関わる道徳の授業における「ＩＣＥルーブリック」を教師が作成し，道徳の授業の評価場面で両者が活用し，授業の指導改善につなげた結果，生徒の主体的な学びが促され，自主自律に関わる道徳的価値の自覚が深まり，自主自律の精神を育むことができた。

**キーワード：自主自律の精神　ＩＣＥモデル　「ＩＣＥルーブリック」　主体的な学び**

## Ⅰ　主題設定の理由

中央教育審議会の「道徳に係る教育課程の改善等について(答申)」（平成26年）において，「教育基本法においては，教育の目的として，人格の完成を目指すことが示されている。人格の基盤となるのが道徳性であり，その道徳性を育てることが道徳教育の使命である。」[1)]と明示されている。また，道徳教育を通じて育成される道徳性，とりわけ，内省しつつ物事の本質を考える力や何事にも主体性をもって誠実に向き合う意志や態度などは「生きる力」を育むものであると示されている。さらに中学校学習指導要領解説道徳編（平成20年，以下「解説」とする。）では，内容項目の指導の観点において，自ら考え，判断し，実行し，自己の行為の結果に責任をもつことが道徳の基本であり，自らの規範意識を高め，自らを律することができなければならないと示されている。

所属校の平成26年度全国学力・学習状況調査における生徒質問紙調査結果によると，質問項目「学校の規則を守っていますか」の肯定的回答は 95.9%（全国平均 92.9%），質問項目「自分には，よいところがあると思いますか」では 54.2%（全国平均 67.3%）であった。また，平成26年度に所属校で実施した道徳アンケート結果における質問項目「人には親切にしたい」では肯定的回答は 97.9%，質問項目「人が困っているときは，進んで助けている」では 88.1%であった。

これらの結果から，所属校の生徒は，規範意識が比較的高く，行動に移したいという思いをもっているものの，自分に自信がないため，自分で判断し，積極的に行動するまでには至っていない面があることが分かった。また，主体的に学ぶ姿勢を含めた自主自律の精神が十分に育まれていない実態があると考えられる。

そこで，道徳の授業において，生徒の自主自律に関する道徳的価値の自覚を深めていくために，生徒の主体的な学びを促す「ＩＣＥルーブリック」を取り入れた評価を行うものとする。具体的には，道徳の授業における道徳的価値の自覚を深める三つの事柄と，主体的な学びを促すＩＣＥモデルの学びの三つの段階の内容を関連付け，自主自律に関する「ＩＣＥルーブリック」を教師と生徒が共有・作成し，授業の指導改善に生かしていく。

本研究は道徳の授業において，主体的な学びを促すＩＣＥモデルを取り入れた道徳の授業の在り方を提言するものであり，今後，発展性のあるものと考える。

## Ⅱ　研究の基本的な考え方

## １　自主自律の精神を育む道徳の授業における指導とは

### (1) 自主自律の精神を育むとは

中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（平成27年，以下「解説（特別の教科）」とする。）において，「『自律の精神を重んじ』るとは，ほかからの制御や命令を待つことなく，自分の内に自らの規律を作り，それにしたがって行動しようとする気持ちを大切にすることである。」[2)]と示されている。つまり自律の精神とは，自分の内に自らの規律を作り，それにしたがって行動しようとする気持ちと捉える。

また「『自主的に考え，判断』するとは，他人の保護や干渉にとらわれずに，善悪に関わる物事などについて幾つかの選択肢の中から自分で最終的に決めることである。」[3)]と示されている。つまり，自主とは，あらゆる行為において自分の力で決定することと捉える。さらに，自主と自律について，「自律は，自分の内部に自ら規律を作ることに焦点があり，自主は，外部に対し自分の力で決定することに焦点がある。したがって，自主と自律は一体的に考えられることが多いのである。」[4)]と示されている。

以上のことから，自主自律の精神を育むとは，あらゆる行為において自分の力で決定し，自分の内の自らの規律に従って，行動しようとする気持ちを育むことと捉える。

### (2) 道徳の授業とは

「解説（特別の教科）」では，道徳科の授業では，生徒一人一人が見通しをもって主体的に考え，学ぶことができるようにする必要があり，学んだことを振り返らせたりする指導が重要であるとして，その指導内容を生徒が自分との関わりで捉え，切実感をもって学習することで真に生徒が習得することにつながると示されている。

なお，横山利弘（2007）は，道徳の授業は「生涯を通じてあらゆる行為において必要な道徳的実践力を養うことを目的としている。」[5)]と述べている。道徳的実践力を育成することについて，赤堀博行(2013)は，道徳的価値の自覚を深めることが大切であると述べている。

### (3) 自主自律の精神を育む道徳の授業とは

前述の（１）（２）より，生徒が自分との関わりで主体的に考え,学び,振り返る学習活動を通して，あらゆる行為において自分の力で決定し，自分の内の自らの規律に従って行動しようとする道徳的実践力を育む授業が，自主自律の精神を育む道徳の授業であると考える。

### (4) 自主自律の精神を育む道徳の授業の指導方法の工夫とは

「解説（特別の教科）」において，道徳科は道徳的価値を自己との関わりにおいて捉える時間であることから，生徒が道徳的価値を内面的に自覚できるよう指導方法の工夫に努めなければならないことや生徒が主体的に道徳性を育むための指導として，自らを振り返り成長を実感し，課題や目標を見付ける工夫が必要だということが示されている。

この点を踏まえ，本研究では，道徳の授業の各学習指導過程において，道徳的価値について自分との関わりで考えさせるために指導の工夫を行うこととした。

導入の工夫として，「解説」において，アンケート調査の結果等を提示し，本時の主題に関わる問題意識をもたせることが示されていることから，自分との関わりにおいて自分で考え，判断させるため，問題意識をもたせるように発問を工夫し，道徳的価値について大切なことをつかませる。

展開の工夫として，「解説」において「生徒が主体的に人間としての生き方を追求し，思考を深めるためには，生徒が道徳的価値を自分のこととしてとらえ，その価値とのかかわりで深く自己を見つめるようにすることが大切である。」[6)]と示されていることから，自己を振り返るための書く活動を取り入れ，自分だったらという視点で考えさせる。

終末の工夫としては，「解説（特別の教科）」において，「この段階では，学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり，学んだことを更に深く心にとどめたり，これからへの思いや課題について考えたりする学習活動などが考えられる。」[7)]と示されている。また，高安久雄（平成22年）は，自分自身を見つめ，自己の改善を目指した自分の思考について深める，メタ認知能力の育成につながるものが自己評価であると述べている。このことから，生徒の自己評価活動を取り入れることとする。

## ２　ＩＣＥモデルを取り入れた道徳の授業の評価

### (1) ＩＣＥモデルを取り入れた自主自律の精神を育む道徳の授業とは

平成27年度広島県教育資料では，主体的な学びについて，学習者自身が学んだ知識をつなげて新たな知識を生み出したり，新たな学びを展開したりしていくような学びであると述べられている。このよう

な学びの過程を教師がイメージし，生徒にも示すことで，学びの質を高めていくことが期待できるとも述べられている。

Sue Fostaty Young と Robert J.Wilson (2013) は，学びの質の高まりを重視し，教師も生徒もその変容を捉えることができるモデルをＩＣＥモデルというと述べている。ＩＣＥモデルとは，Young と Wilson (2013) により考えられた評価と学習方法であり，「アイデア」「つながり」「応用」の三つの段階で構成されている。Young(2013)は,「アイデア」の段階は，学習の様々な要素である事実やスキルやプロセスの中のステップのようなもの,「つながり」の段階は，授業において学んだこととすでにもっている知識をつなげることができる場合をいうと述べている。さらに，「応用」の段階は，新しい環境において学んだことを使ったり学んだことに基づいて事態を予測できたりすることであると述べている。

そこで，自主自律の精神を育む上で，あらゆる行為において自分の力で決定し，自分の内に作った規律に従って誠実に実行するという道徳的価値を深めることが重要なことから，本研究では，ＩＣＥモデルの三つの段階を道徳の授業に取り入れる。(図１) 内容と，道徳的価値を深める三つの事柄である「道徳的価値についての理解」「自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられる」「道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われる」を関連付けていく。その上で，各段階で押さえる道徳的価値の自覚の深まりに関する事柄として，導入時に「アイデア」を取り入れ，大切なことをつかませる段階とし，展開時に「つながり」を取り入れ，自分だったらと考えさせる段階とする。終末時に「応用」を取り入れ，これからの自分への思いや願いをもたせる段階とした。このように，ＩＣＥモデルを道徳の授業に取り入れ，教師も生徒も学びの変容を捉え，学びの質を高めることにより，自分の力で決定し，自分の内の自らの規律に従って行動しようとする気持ちを育んでいくことができると考えた。

本研究において，自主自律の精神を育む道徳の授業における指導方法の工夫と各段階で押さえる道徳的価値の自覚の深まりに関する事柄とＩＣＥモデルの学びの三つの段階との関連付けを図１に示す。

### (2) 「ＩＣＥルーブリック」の活用の意義

「解説（特別の教科）」において，道徳科における評価の意義として，教師が，生徒自身による自己評価を生かして人間としてよりよく生きようとする努力を支援するとともに，生徒の道徳的なよさや成長に対する共感的な理解に基づき，自らの指導方法などの改善に生かしていくことが挙げられている。

田沼茂紀（2015)は，「道徳の評価で大切なことは，子どもの納得である。」[8] と述べており，子供の道徳的内面を見取るためには，教師が主観のみで評価するのではなく，生徒の自己評価とその評価の観点の明確さの必要性が述べられている。観点を明確にするために田沼（2015）は，評価システムの構築の視点として，明確なルーブリック指標に基づく多様な学習動機を道徳的学びとして包摂するパフォーマンス評価の必要性を挙げている。

富岡栄（2014）は，ルーブリックは，生徒が自分の学びを確認するための自己評価の評価基準として活用可能であると述べている。Young(2013)は，「ＩＣＥルーブリック」は，質的評価ができ，生徒と教師が共有することを通して，生徒が自ら基準を設定し，自分自身の学びを客観的にみることで，学生に自分自身の学びがもつ発展的な性質を理解する機会を与えることになり，学びの質を深めることにつながると述べている。

これらのことから自主自律の精神を育む道徳の授業において「ＩＣＥルーブリック」を活用する意義は，教師と生徒が共有する評価基準と評価の観点が明確になり，生徒が道徳的価値の自覚の深まりに関してより納得できる評価につながる点であると考える。

**自主自律の精神を育む授業において目指す生徒の姿**
**自分との関わりにおいて見通しをもって，主体的に考え，学び，振り返る学習活動を通して，あらゆる行為において自分の内に作った規律に従って誠実に行動しようとする生徒**

| | 自主自律の精神を育む道徳の授業における指導方法の工夫 | 各段階で押さえる道徳的価値の自覚の深まりに関する事柄 | ＩＣＥモデルの学びの三つの段階と内容 |
|---|---|---|---|
| 導入 | 発問の工夫<br>・問題意識をもたせる。 | 大切なことをつかませる。<br>（価値理解） | 「アイデア」の段階<br>事実やスキルを学ぶ。 |
| 展開 | 書く活動の工夫<br>・振り返りをさせる。 | 自分だったらと考えさせる。<br>（自己理解） | 「つながり」の段階<br>学んだことと，もっている知識をつなげる。 |
| 終末 | 評価の工夫<br>・自己評価をさせる。 | これからの自分への思いや願いをもたせる。 | 「応用」の段階<br>新しい環境で使う，事態を予測する。 |

図１　道徳の授業とＩＣＥモデルの段階の関連

### (3) 「ＩＣＥルーブリック」の作成等について

#### ア　学級活動における「ＩＣＥルーブリック」の共有及び作成

本研究における自主自律の精神を育むための研究構想図を図２に示す。

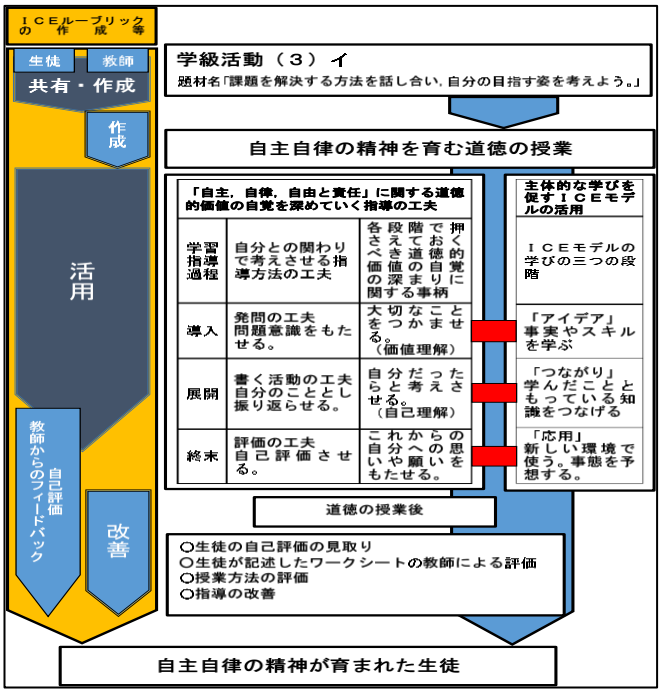


図２　本研究における自主自律の精神を育むための研究構想図

中学校学習指導要領解説特別活動編(平成20年)において，学級活動（３）イは，生徒が自分にふさわしい学習方法を見いだし，学習の悩みを克服するなどして，学習意欲をもって取り組むよう，内容を取り上げることが大切であると示されている。所属校において「主体的に学ぶ姿勢を含めた自主自律の精神が育まれていない。」という課題の解決に向けて，次のような学級活動に取り組んだ。指導過程の流れを表１に示す。

表１　学級活動の指導過程

| | |
|---|---|
| 題材名 | 「課題を解決する方法を話し合い，自分の目指す姿を考えよう。」 |
| 導入 | 事前アンケートの結果により，「自分で判断している」「自分で判断して実行している」を円グラフにて割合を生徒に示す。 |
| 展開 | ①自分のためになると分かっているのに，実行しにくいこととして生徒にとって一番身近な「勉強すること」を取り上げる。<br>②自分自身の課題を振り返り，実行するために必要なことを個人で考え，小グループで，「Ｉ　大切なこと」「Ｃ　自分だったら」「Ｅ　これからの自分への思いや願い」の三つに分けさせる。<br>③それぞれグループに発表させ，生徒が挙げた「Ｉ　大切なこと」「Ｃ　自分だったら」「Ｅ　これからの自分への思いや願い」のそれぞれを短文にまとめる。<br>④出来上がった表が「ＩＣＥルーブリック」であることを生徒に知らせる。<br>⑤自分が書いておいた課題(勉強に対しての気持ちや姿勢)について，ルーブリックで自己評価させる。 |
| まとめ | 自己評価を基にし，「これから勉強に対してどのように取り組むのか。」の個人目標を設定させる。 |

図２の上部にあるように，学級活動において「課題を解決する方法を話し合い，自分の目指す姿を考えよう。」という題材名で，これから自分は勉強に対してどのように取り組むのか，話合い等で考えを深めさせ，自らの個人目標を立てさせる活動を仕組んだ。その中で，ＩＣＥモデルの考えを取り入れ，生徒と共に「ＩＣＥルーブリック」（評価基準）を作成した。それを表２に示す。

表２　学級活動で作成した「ＩＣＥルーブリック」

| | 大切なこと | 自分だったら | これからの自分への思いや願い |
|---|---|---|---|
| 勉強に対する気持ちや態度 | ・勉強することが大切だと気付いている。<br>・やる気をもって勉強することが大切であると整理している。（気付いている） | ・自分だったら，どう考えるか説明している。<br>・いろいろある考えの中から，よりよい考えを自分なりに選択している。<br>・自分自身の経験と関連付けて考えている。<br>・勉強することの楽しさを分かっており，進んで勉強しようと説明している。<br>・勉強することは，自分のためになると理解しているので，勉強しようという考えを選択している。 | ・今までの考えと，現在の考えを比べて説明している。<br>・人の意見や気持ちを参考に，これからの自分の在り方を考えていきたいと思っている。<br>・勉強することの意義が分かり，これからの勉強に対する自分の考えを推測している。<br>・勉強以外のことでもやる気をもって取り組み，これからの自分を創造しようとしている。 |

## イ　検証授業における「ＩＣＥルーブリック」の作成

学級活動で作成した「ＩＣＥルーブリック」を基に，道徳的実践力の育成を目指す道徳の授業において活用する「ＩＣＥルーブリック」を作成した。それを表３に示す。縦軸に生徒に身に付けさせたい力として，自主自律の精神を育む道徳の授業の内容項目を参考に，「自分で考え，自分の意志で判断し，行動しようとする心」というように，分かりやすく表現した。横軸は評価基準として，道徳的価値の自覚の深まりに係る三つの事柄である，「大切なことをつかませる。」「自分だったらと考えさせる。」「これからの自分への思いや願いをもたせる。」を簡略化して，「大切なこと」「自分だったら」「これからの自分」の３段階とした。

表３　検証授業１においての「ＩＣＥルーブリック」

| | 大切なこと | 自分だったら | これからの自分への思いや願い |
|---|---|---|---|
| 自分で考えようとする心、自分の意志で判断し、行動 | ・自分で決めたことを実行することは大切だと気付いている（または，知っている）。<br>・自分で決めたことは，自分の意志でやり抜こうとする気持ちをもっている。<br>・自分で考え，自分の決めたことを実行することは大切だと気付いている。 | ・自分だったら，どう考えるか説明している。<br>・いろいろある考えの中から，よりよい考えを自分なりに選択している。<br>・自分自身の経験と関連付けている。<br>・自分の今までの経験を踏まえて説明している。<br>・自分が決めたことであっても，できないこともあるが，進んでやりたいという考えを選択している。<br>・自分で判断して実行することは，自分のためになるので自主的にやりたい。 | ・今までの考えと，現在の考えを比べて説明している。<br>・人の意見や気持ちを参考に，これからの自分の在り方を考えていきたいと思っている。<br>・自分で考え，判断し，実行することの大切さがわかり，将来に向けた自分の在り方を修正したり，評価したりしている。<br>・違う場面（部活動以外）でも，自分で考え，判断し，実行することを大切に考え，これからの自分を創造しようとしている。 |

### ウ　「ＩＣＥルーブリック」の改善

表４に検証授業１後に改善を図った「ＩＣＥルーブリック」を示す。表４における基準の３段階の内，「自分だったら」と「これからの自分への思いや願い」のそれぞれの評価指標について，検証授業１では，この二つの段階の違いを明確に理解させることができなかった。そのため，次のとおり改善を図った。その一つ目は，表４の下線部①と②にあるように，この２段階の区別を明確にするため，時間的な流れを明示した。二つ目は，表４の太枠で示すように，読み物資料の内容を踏まえた評価指標とした。

表４　検証授業１後に改善を図った「ＩＣＥルーブリック」

| | | 大切なこと | 自分だったら | これからの自分への思いや願い |
|---|---|---|---|---|
| 自分で考え，自分の意志で判断し，行動しようとする心 | 自主自律のルーブリック基本 | ・自分で決めたことを実行することは大事だと分かっている。（気付いている） | ・自分がその立場だったら，どう考えるか表現している。<br>・自分のこれまでの考えと，現在の考えを比べて表現している。<br>・様々な考えの中から，自分なりに判断し，選択している。 | ・資料や他の生徒の意見などを参考に，これからの自分の在り方を考え，表現している。 |
| | 指導者の想定される生徒の記述 | 明の視点や自分の視点での，大切なことへの気付き | ①過去・現在の自分の考え，自分の課題 | ②未来の自分の考え，発展的な考え |
| | | ・明は自分でやるべきことに気付き，それを実行できてよかった。<br>・自分で考えて行動することが大切であると分かった。 | ・自分が明の立場だったら，同じように実行すると思う。<br>・自分が明の立場だったら，すぐに行動には移せないかもしれないが，行動するほうがよいとは思う。 | ・自己の成長のため，自分がよいと思ったことは実行しようと思う。<br>・自分にとっても他の人にとってもよいと思うことは実行しようと思う。<br>・これまで自分でよいと思ったことでも実行に移せてなかったが，これからは実行しようと思う。 |

## Ⅲ　研究の仮説及び検証の視点と方法

### １　研究の仮説

自主自律に関する道徳的価値の自覚を深めていくことをねらいとする道徳の授業において，自分との関わりについて見通しをもって，主体的に考え，学び，振り返らせる指導方法の工夫を行い，主体的な学びを促す「ＩＣＥルーブリック」を取り入れた評価を行えば，自主自律の精神を育むことができるであろう。

### ２　検証の視点と方法

検証の視点と方法について，次の表５に示す。

表５　検証の視点と方法

| 検証の視点 | 方法 |
|---|---|
| ○自分との関わりにおいて，見通しをもって，主体的に考え，学び，振り返らせる指導方法の工夫を行うことは，自主自律に関する道徳的価値の自覚を深めることに有効であったか。<br>○道徳の授業において，「ＩＣＥルーブリック」を取り入れたことは，主体的な学びを促すことに有効であったか。 | ○「ＩＣＥルーブリック」による評価<br>・生徒による自己評価<br>・教師による評価<br>○ワークシートへの記述<br>・生徒の記述内容<br>・教師のコメント<br>○「道徳の授業についてのアンケート」（事前事後） |

## Ⅳ　研究授業について

### １　研究授業の内容

○　期　間　平成27年７月８日～平成27年７月14日
○　対　象　所属校第２学年２組（30人内欠席１人）

### ２　研究授業の概要

検証授業１及び２の概要を次頁表６に示す。

## Ⅴ　研究授業の分析と考察

### １　自分との関わりにおいて，見通しをもって，主体的に考え，学び，振り返らせる指導方法の工夫を行うことは，自主自律に関する道徳的価値の自覚を深めることに有効であったか

#### (1)「道徳の授業についてのアンケート」の結果による分析と考察

生徒の自主自律の精神が育まれたかについて，検証授業の事前事後の変容を図３，４に示す。

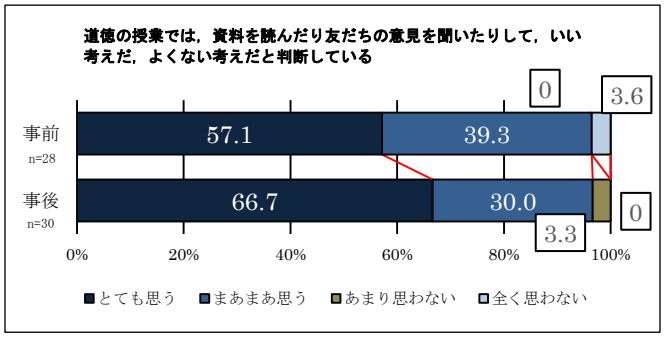


図３　自主自律の精神（判断）に関する生徒の意識

図３について，自分で考え，自分の意志で判断することについて問う項目で，事前事後で肯定的回答をした生徒の割合を比較すると，ともに96％を超えており，いずれも高い数値であった。特に「とても思う」と回答をした生徒の割合を比較すると，事後は9.6ポイント増えた。これらの数値により，今まで以上に積極的に判断しようとしていると推測できることから，自分との関わりで考えさせる指導方法の工夫を行うことは，道徳的価値の自覚を深めることに有効であったと考えられる。

よりよいことを実行するについての意識を問う設問の結果を図４に示す。事後に「とても思う」と回答した生徒は3.8ポイント減少したものの，肯定的回答を示した生徒は，事後で90％を超え，また，「全く思わない」と回答をする生徒はいなくなったことから，自分との関わりで考えさせる指導方法の工夫

表６　検証授業の概要

| | 検証授業１（７月８日） | 検証授業２（７月 14 日） |
|---|---|---|
| 主題名<br>内容項目 | 自分で考え，よりよい判断をする<br>１－（３）自主自律・誠実・責任 | 自主的に考え，自分を律して生きる<br>１－（３）自主自律　　関連項目４－（８） |
| ねらい | 絵里の気持ちを考えることを通して，自主的に考え，よりよい判断をすることを大切にし，誠実に実行しようとする道徳的実践意欲を育てる。 | 町内会の草刈り作業に大人に交じって参加した明の気持ちの変化を考えることを通して，自主的に考え，自分を律して生きていこうとする道徳的実践意欲を育てる。 |
| 資料名 | 「スイッチ」<br>（出典：文部科学省「中学校道徳読み物資料集」） | 「町内会デビュー」<br>（出典：文部科学省「中学校道徳読み物資料集」） |
| 主な学習の流れ<br>○基本発問<br>◎中心発問 | 1　事前アンケートの結果を見て，学級の仲間が感じていることと確認して，問題意識をもつ。<br>○　円グラフを見て気付くことを挙げましょう。<br>2　資料「スイッチ」を読んで話し合う。<br>○　一年からの不満が出始めた時，「いいの。これが城南の練習なんだから。」と答える絵里はどんな気持ちだったのでしょうか。<br>◎　「君たちは試されているんだよ。」という言葉が頭から離れなかった絵里は，どんなことを考えたのでしょうか。<br>○　「スイッチ切り替えよう！」と言った絵里は，何に気付いたのでしょうか。<br>3　今日の授業を通して，感じたこと，考えたことをワークシートに記入する。<br>○　今日の授業を通して，考えたことをワークシートに記入しましょう。<br>4　今日の授業で考えたことを自己評価する。<br>○　今日の授業で感じたこと，考えたことを先日作ったルーブリックを使って，自己評価しましょう。<br>○　（「これからの自分…」に○をつけている生徒に対して）振り返りを発表しましょう。 | 1　クラスの中での自分の役割を思い起こして，問題意識をもつ。<br>○　クラスの中での自分の役割は何ですか。<br>2　資料「町内会デビュー」を読んで，話し合う。<br>○　ザクッ，ザクッと草を刈っている明はどんな気持ちだったのでしょうか。<br>◎　明が「よし。」と言ったのは，どんなことに気付いたからでしょうか。<br>3　自主的に考え自分を律して生きることについて考える。<br>○　明はなぜ「背筋を伸ばして，大股で学校に向かった。」のでしょうか。<br>4　今日の授業を通して感じたこと，考えたことをワークシートに記入する。<br>○　今日の授業を通して，考えたことをワークシートに記入しましょう。<br>5　今日の授業で考えたことを自己評価する。<br>○　自分が書いたことをルーブリックで評価しましょう。<br>○　（「これからの自分…」に○をつけている生徒に対して）振り返りを発表しましょう。 |

を行うことは，道徳的価値の自覚を深めることに有効であったと考えられる。

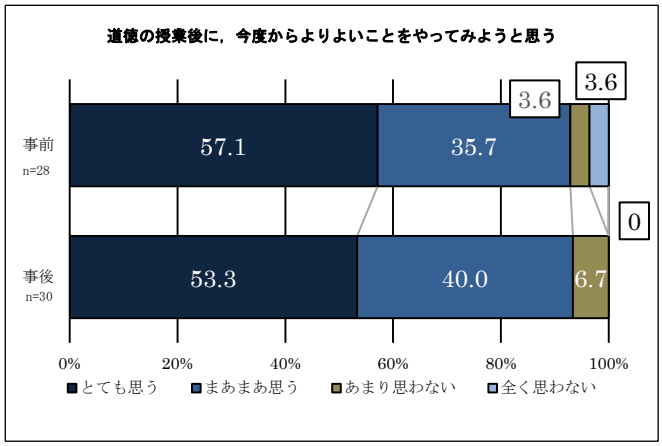


図４　自主自律の精神（実行）に関する生徒の意識

次に，道徳的価値の自覚の深まりの変容を図５，図６に示す。

どちらのグラフにおいても，肯定的回答の割合は事後に上昇し，96%以上となっていることから，道徳的価値の自覚は深まっていると考えられる。しかし，どちらのグラフにおいても事後において，「とてもそう思う」と回答した生徒の割合が低下した。これは，検証授業２の導入において，問題意識をもたせるための発問の工夫に不十分な面があったことが原因として考えられる。

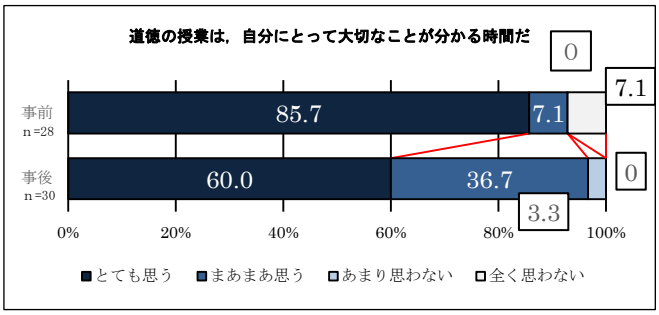


図５　道徳的価値の自覚の深まり（価値理解）の変容

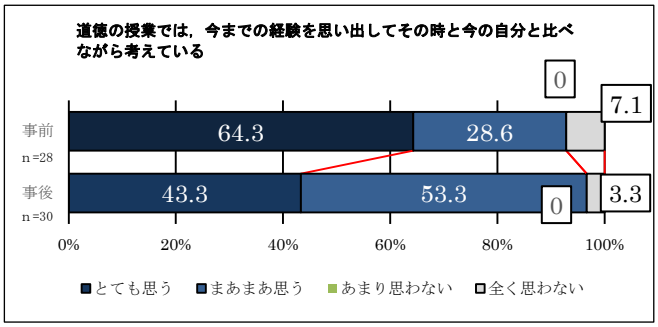


図６　道徳的価値の自覚の深まり（自己理解）の変容

## (2)　「ＩＣＥルーブリック」による評価の分析と考察

### ア　生徒の自己評価の分析と考察

図７に検証授業１と２における「ＩＣＥルーブリック」を用いた生徒の自己評価の結果について示す。

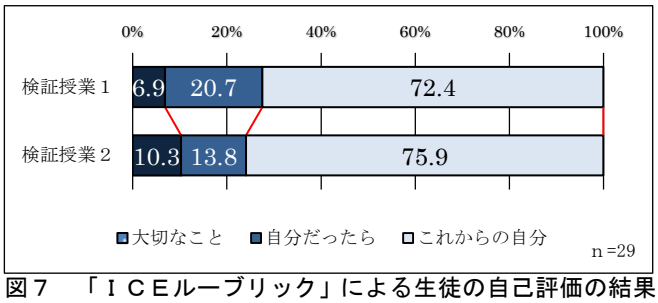


**図７　「ＩＣＥルーブリック」による生徒の自己評価の結果**

検証授業１と２のいずれにおいても，「つながり（自分だったら）」「応用（これからの自分）」の段階に達したと自己評価した生徒の割合は約90％であり，非常に高い数値を示している。とりわけ検証授業２は，「応用(これからの自分)」が上昇している。このことは，検証授業２の方が，さらに生徒の道徳的価値の自覚が深まったことを示している。

一方，「大切なこと」の段階にとどまる生徒の割合がわずかではあるが高まった。その原因としては，検証授業１と２の主題のレベルが揃っていなかったことや，検証授業２の内容が生徒にとっては，生活から離れた内容であったことなどが考えられる。「大切なこと」の段階と自己評価した生徒にとっては，主人公の考え方を肯定的に捉えながらも，自分に置き換えて考えることが難しかったようである。

### イ　教師による評価の分析と考察

図８に検証授業１と２におけるの「ＩＣＥルーブリック」を用いた教師による評価の結果を示す。

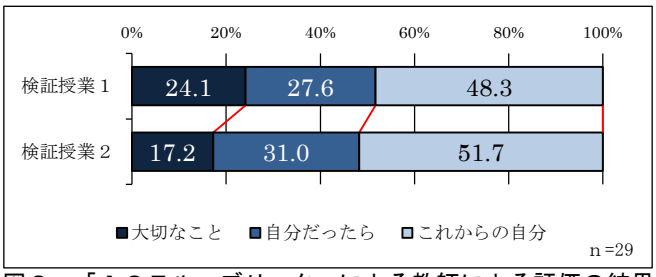


**図８　「ＩＣＥルーブリック」による教師による評価の結果**

２回の検証授業の評価結果を比べると，検証授業２では，「応用（これからの自分）」「つながり（自分だったら）」の段階に到達したと評価した生徒の割合がともに高まっており，両者を合わせて80％以上の生徒がこれらの段階に到達した。この結果から，「ＩＣＥルーブリック」を活用した２回の授業を行ったことにより，全体として，生徒の道徳的価値の自覚が深まったと判断できる。

### ウ　生徒の自己評価と教師の評価のずれの分析と考察

各基準における生徒の自己評価と教師による評価の割合の違いをずれと表す。このずれはどの基準においても見られ，「ＩＣＥルーブリック」の共有が十分でなかったことが考えられる。その原因として，生徒の「ＩＣＥルーブリック」を活用する意義についての理解が十分に図られておらず，生徒がワークシートへの記述内容ではなく，自分の考えが当てはまる「ＩＣＥルーブリック」の段階を基に自己評価したことが考えられる。ずれをなくすためには，道徳の授業においても教師と生徒の「ＩＣＥルーブリック」の共有の時間が必要であると考える。生徒のワークシートへの記述は表７に示している。

**表７　生徒のワークシートへの記述内容及び評価結果**

| | 検証授業 | ワークシートの振り返りの記述 | 生徒の自己評価 | 教師の評価 |
|---|---|---|---|---|
| 生徒Ａ | 1 | 人を頼ることも大切だけど，やっぱりまずは自分で考えて頑張ってそれでもダメなら頼りたい。自分の本気をまずは出したい。何事もスイッチを切り替えて生活したい。「勉強と遊び」「頼ると頑張る」のスイッチ。 | つながり（自分だったら） | 応用（これからの自分） |
| | 2 | 自信がつくと，嫌だと思っていた仕事も楽しくなってさらにほかの仕事を探そうとしていたのはスゴイと思う。私も自分の仕事を楽しくやって他のことまで気を配れるようになりたい。決定したことをやりきろう。 | 応用（これからの自分） | 応用（これからの自分） |
| 生徒Ｂ | 1 | 人に頼ってばかりでは，いざというとき大変なことになるので，自分で頑張ることも大切だと思った。みんなの中心に立つんだったらその中心の人がやる気がないと，周りの人もやる気にならないので，そこも，気を付けたいと思った。 | 応用（これからの自分） | アイデア（大切なこと） |
| | 2 | 人のために何か手伝うことは，自分にとっても，相手にとってもいいことなんだと思った。私も頑張って，一つでも手伝いをしてみたいと思った。 | 応用（これからの自分） | 応用（これからの自分） |

生徒Ａは，教師による評価の段階が高い生徒である。検証授業１において振り返りの記述を「応用（これからの自分）」の基準に達成していないと自己評価していた。しかし教師の見取りでは，これからの思いも記述できていたことから「応用(これからの自分)」に達していると評価をした。

生徒Ｂにおいては，生徒の自己評価の段階が高かった生徒である。検証授業１の振り返りの記述として自分との関わりで考える内容としては，不十分だと教師が評価したため，ずれが生じた。このような生徒に対しては，動詞に着目するなどして，説得力をもたせたい。

## ２　道徳の授業において,「ＩＣＥルーブリック」を取り入れたことは，主体的な学びを促すことに有効であったか

本研究では，初めて「ＩＣＥルーブリック」による評価を行ったため，事後において生徒の「ＩＣＥルーブリック」に対する意識を調べるためのアンケートを実施した。その結果を図９に示す。

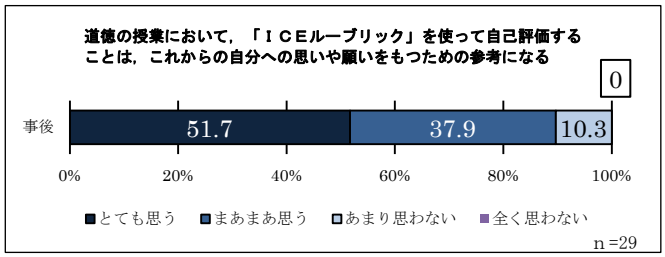


図９　「ＩＣＥルーブリック」についての意識

２回の検証授業において，「ＩＣＥルーブリック」を用いて自己評価したことに対し，約90%の生徒が肯定的に回答をした。これは，「これからの自分」について考えることの必要性を感じるとともに,「ＩＣＥルーブリック」の記載内容から「これからの自分」のイメージをもちやすかったからだと思われる。

また,「自分がどのようなことに気付いているか」を客観的に認識し，記述した生徒もおり，メタ認知を図れたことが分かる。これらのことから，「ＩＣＥルーブリック」を授業に取り入れたことは，主体的な学びを促すことに有効であったと考えられる。

一方,「分からない」と記述した生徒は５人おり，「ＩＣＥルーブリック」を使う意義を全員に理解させることができなかったといえる。

次に，「ＩＣＥルーブリック」を使った生徒の感想の記述内容を次に示す。

○考えをまとめる参考になると思った。
○いろんなことがまとめられているので，とても評価しやすい。
○自分がどのようなことに気付いているかなど評価しやすく，一目でわかりやすかった。
▲ルーブリックの説明が回りくどくて分かりにくかった。
▲よく意味が分からなくて，使いにくかった。
○肯定的回答，▲否定的回答

生徒の感想の記述の一部

これらのことから，生徒のルーブリックの活用に関する疑問等の回答を踏まえて，教師も生徒も評価しやすくするために,表現の簡素化や視点の明確化,「ＩＣＥルーブリック」の意義等を理解させるとともに，意図的，計画的に活用していくことが必要だと考える。

# Ⅵ　研究のまとめ

## １　研究の成果

自主自律に関する道徳的価値の自覚を深めていくことをねらいとする道徳の授業において，自分との関わりで考えさせる指導方法の工夫を行い，主体的学びを促す「ＩＣＥルーブリック」を取り入れた評価を行うことにより，自主自律の精神を育むことができた。

## ２　今後の課題

「ＩＣＥルーブリック」の自己評価を授業に取り入れていく場合,教師と生徒の評価のずれを改善し,評価の精度を上げるため，目指す姿を教師と生徒が十分に共有すること，「ＩＣＥルーブリック」の作成の際，付けたい力を踏まえた評価指標を吟味することが必要である。

また，道徳の授業の特質に応じたＩＣＥモデルを取り入れた評価と学習方法について，今後も継続して研究を行っていく必要がある。

### 【引用文献】


1)　中央教育審議会(平成26年)：『道徳に係る教育課程の改善等について(答申)』 p.2
2)　文部科学省(平成27年)：『中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編』 p.25
3)　文部科学省(平成27年)：前掲書 p.25
4)　文部科学省(平成27年)：前掲書 p.25
5)　横山利弘（2007）：『道徳教育，画餅からの脱却』暁教育図書 p.178
6)　文部科学省(平成20年)：『中学校学習指導要領解説道徳編』 p.90
7)　文部科学省(平成27年)：前掲書 p.79
8)　田沼茂紀（2015）：『道徳教育２月号』 p. 6


### 【参考文献】


文部科学省(平成20年)：『中学校学習指導要領解説特別活動編』日本文教出版
赤堀博行（2013）：『道徳授業で大切なこと』東洋館出版社
横山利弘（2009）：『中学校教育課程講座道徳』ぎょうせい
Sue Fostaty Young・Robert Ｊ.Wilson(2013)：『「主体的学び」につなげる評価と学習方法』東信堂
富岡栄（2014）：『道徳教育３月号』明治図書出版
富岡栄（2015）：『道徳教育２月号』明治図書出版
高安久雄（平成22年）：『新しい学習評価のポイントと実践３』ぎょうせい